

南牧村花卉生産組合花情報(平成 27 年 11 月)

「なんもくの花」



群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 15 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。(写真は年末出荷を控えた南天です)

『南天の出荷間近！』

南天は「難を転ずる」に通じることからお正月の縁起物として人気の切り花で、「なんもくの花」の主要品目の一つです。花木である南天は、急な傾斜や狭い南牧村の畑を有効に活用できますが、急傾斜での作業は一苦勞。それでも農家の皆さんは「なんもくの南天」を待ち望んでいる皆さんのために畑から切り出します。



【急傾斜地での栽培】



【高い石垣の縁で栽培(中央やや上)】



【数少ない白実種】

『来年も豊作！？』

南牧村で古くから栽培が続くキク。栽培面積は減少しましたが今でも熱心に栽培に取り組んでいます。南牧村では、まだ寒い3月に挿し芽で増殖することから、それに向けた準備はすでに始まっています。ハウス内で一斉に芽吹き始めたキクの親株は来年の豊作を予感させます。

【芽吹き始めたキクの親株】 →

